

98. 万国津梁 (ばんこくしんりょう)

6月23日は沖縄県が制定している沖縄戦の戦没者を追悼する「慰霊の日」。沖縄戦は住民を巻き込んだ大規模な地上戦で、3ヶ月で日米併せて20万人の戦死者（日本軍94,000、一般住民94,000、米軍12,500）を出し、住民の4人に1人が犠牲になったといわれている。

1945年3月26日、沖縄本島的那覇から西に凡そ50kmの慶良間諸島（渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島、慶良間島等）に米軍が上陸、4月1日には沖縄本島への上陸を開始した。激しい攻防の末、米軍は5月11日に日本軍司令部の首里を総攻撃し、日本軍は撤退した。この撤退が米軍の猛攻撃に住民を巻き込むことになり、多くの犠牲を強いることになる。摩文仁に司令部を移しても戦況の好転はなく、6月23日牛島満司令官の自決により日本軍の組織的な戦闘は終わる。展望なき消耗戦を行った日本軍は、米軍への投降を禁じ住民を巻き込んだ修羅場をつくった。

23日に摩文仁で行われた戦没者追悼式で玉城沖縄県知事の行った平和宣言の記事を感動を以て読んだ。住民を巻き込んだ修羅場を「ありったけの地獄」と述べ、「凄惨な沖縄戦の実相と教訓は、体験者が心の傷を抱えながら後世に伝えようと残した証言と、沖縄戦研究者の努力によって今日まで受け継がれた。これこそが私たち沖縄県民の平和を希求する心の原点だ。この実相と教訓を守り続けるのが私たちの使命だ」と格調高く訴え、「苦難の歴史を歩んできた沖縄は、「命めいどう宝」（「命こそ宝」という意味）を何よりも重んじ、争いのない平和の世界を切に願う」とし、沖縄が果たすべき役割として、①国際平和研究機構の創設、②沖縄の戦争遺跡群の保存・活用、③核軍縮及び核兵器廃絶の推進、を挙げた。そして最後に先人達から脈々と受け継いできた「万国津梁ばんこくしんりょう」の精神により、国際社会とともに恒久平和の実現に貢献する、とある。玉城知事の思いが伝わってくる慰霊の日の平和宣言であったと思う。

ところで、「万国津梁」という言葉を不覚にも知らなかった。調べると「万国の架け橋」というような意味。この言葉は「万国津梁の鐘」と呼ばれる梵鐘に刻まれている漢文の一節である。その最初の部分の意識は「琉球王国は南の海にある蓬莱の島で船を万国の架け橋にして貿易によって栄える国である」というものであり（注）、日本と明国との間にあって海洋貿易国家として栄えた琉球王国の気概を示すものとされている。

この梵鐘は、かつては首里城正殿に懸けられていたが、現在は沖縄県立博物館・美術館にて保管されていて、動画でその歴史や音色も聴くことができる。第二次世界大戦下、この梵鐘は金属類回収令による供出対象にはならなかったが、沖縄戦で被災し、表面にはその時の弾痕が残る。

このような事から梵鐘と万国津梁の言葉は沖縄にとって重要なものになっている。沖縄県のHPを見ると、新時代沖縄を構築するための様々な検討会議に「万国津梁会議」という名を付けていることからわかる。一例を挙げると、「プラスチック問題に関する万国津梁会議」「稼ぐ力に関する万国津梁会議」等々。「米軍基地問題に関する万国津梁会議について」もある。

なお、この梵鐘は1458年に琉球王国第一尚氏王統の尚泰久王が鑄造させたもので、「大工藤原国善」の銘があり筑前の芦屋鑄物師と推定されている。法量は高さ154.9cm、口径93.1cm、重さ721kgと可成り大きい。蛇足だが10歳若ければこの梵鐘を詳しく調べてみたいのだが・・・

（注）原文は「琉球国者南海勝地而 鍾三韓之秀以大明為 輔車以日域為唇齒在 此二中間湧出之蓬莱 島也以舟楫為万国之 津梁」、書き下しは「琉球国は南海の勝地にして、三韓の秀あつを鍾め、大明を以て輔車と為し、日域を以て唇齒と為して、此の二の中間に在りて湧出する蓬莱島なり。舟楫を以て万国の津梁となす」（「小さな資料室」（<http://sybrma.sakura.ne.jp/420bankoku-shinryounokane.html>）より）

（2025年6月26日）